

付 録

上越市歴史的建造物リスト

付録 上越市歴史的建造物リスト

1. リスト作成の目的

2001年度において東京大学藤井研究室が行なった調査は、上越市内に存在する建造物（建築）の中から歴史的価値の認められるものを探し出すことを一つの目的としている。ここに掲げるリストは、その成果の報告のために作成したものである。ここでいう「歴史的な価値の認められる建造物」とは、その建造物を通して上越という地域と、そこで暮らしてきた人々の歴史を読み解くことのできる建造物を意味する。長い歴史を経てきた建造物の中には、過去の情報を現代へと伝達する役割を果たしているものがあり、そして建造物の持つ情報伝達能力は時として文献史料にまさるものとなる。建造物の情報伝達方法は、視覚的・身体的なものであり、それゆえに文献では伝わりにくいことでも、建造物を一瞥しただけで容易に体得できる場合があるのである。例を挙げるならば、立派な古い建築を目にしたら、その建築がたてられたころ、その場所にその建築を実現できるだけの豊かさがあったということを理解できるのである。上越市内の建造物について今一つの具体例を挙げるならば、直江津に土蔵造の寺院建築が多く残っているのを見たら、直江津が大火に悩まされてきたであろうことを読み取ることができるのである。

さて、当リストに含まれるのは、我々が調査（主に実地調査）した際に実見・伝聞した建造物の中から、歴史的な価値があると現時点で判断しているものを選出したものである。我々の実地調査は、限られた日程のために、上越市内のごく限られた範囲でしか実施していない。よって、我々が確認しえなかった物件がまだ多く存在することであろう。またこのリストに掲載したものは我々が直感的に選出したものではあり、その価値を客観的に説明するために必要な

文献による裏付けの作業は間に合っていない。すなわち、このリストはあくまでも中間的なものをご理解していただきたい。今後、必要となるのは、まず今回の調査で網羅しきれなかった地域の実地調査を行なうことである。そして最終的には、多種多様な保存政策を開発してゆくことが肝要であろう。

既に述べたように、歴史的建造物には、地域の歴史を後世へと伝える力がある。歴史を理解するということは、現在の状況を把握するということであり、未来への方策を探ることにほかならない。上越の歴史をつたえるのは、上越の建造物だけである。そして、それは上越の未来を考える材料にもなるのである。

2. リスト所載の建造物の概要

リストには合計141件の建造物が載せられている。上越市内には、現在すでに建造物として文化財指定を受けたものが、重要文化財1件、県指定1件、市指定7件の合計9件あり、いずれもリストに収めた。

高田の町家の比重が大きくなったのは、上越において最も特色をもった建築群であるという判断があったからであり、また高田の町家については調査に多くの時間を割いて総合的に検討する価値があると考えた結果である。従来、高田の町家においては雁木通りが一大特色として注目されてきたが、内部空間も非常に個性的であり、かつ日本各地の伝統的な住宅形式の中でも完成度の高いものといえる。特に2階まで吹抜となったチャノマは空間的に魅力的であると判断し、その形成過程、意匠、機能、採光・換気方法についての解析を行なう必要を感じた。リストに掲載された町家はそのような関心を反映したものとなっている。南本町・大町・東本町の一部については集中的に町家の調査を行な

ったが、本町・北本町などは未調査であり、補足が必要である。

また農家については、郊外（農村部）での調査に日程が割けなかったため、唯一調査対象とすることが出来た中ノ俣のもののみを取り上げた。中ノ俣以外の地域のものも、是非調査を実現させ、不備を補いたい。

旧師団長官舎に代表される、いわゆる近代洋風建築もできるだけ掲載するようににつとめた。『日本近代建築総覧』（日本建築学会編、昭和55年）には上越市内のものが23件掲載されているが、残念ながら既に失われてしまったものが多い（いかや旅館、高田館など）。現存する作品6件（うち2件は移築保存）についてはすべて掲載した。『総覧』から漏れていたものとして、細巾会館、飯塚組などをこれに加えた。

社寺建築は、一般的に技術的水準が高く、建設費用も住宅などと比べると巨額なものとなるため、興味深いものが多い。ただし、社寺についても調査できたのは上越市内のごく一部である。直江津の寺院については若干の調査を進められたが、それ以外の地域のものは現段階ではほとんど未調査といって過言ではない。高田地区では寺町に多くの寺院が集中しており、中には興味深い遺構も多いものと思われるが、リストに反映させるには至っていない。当リストでは、『新潟県の近世社寺建築 新潟県近世社寺緊急調査報告書』（県教育委員会、昭和60年）を踏まえ、同書で二次調査対象とされていた市内の5件については全て掲載した。しかし、一次調査のみが行われたとされるおよそ80社寺の建築については、ごく一部しか実見できておらず、今後あらためて調査を行う必要を感じている。一次調査対象の寺院建築のうち幾つかはすでに改築のために姿を消してしまっていることも分かったので、できるだけ早急な調査が望ましい。また、近世社寺調査では対象外となっていた社寺建築についても、上越市域では近代にも質の高い社寺造営が維持されていたことも

明らかとなった。直江津の真行寺鐘楼（明治17年）、高田寺町の浄興寺唐門（同21年）、中門前の林泉寺山門（大正14年）などは、当市域における近世のものよりもむしろ優れた造形性を持っている。時代の新旧に係わらず、良質な建築を探しだすべきであろう。

また城下町である高田は、武家地・町人地・寺町というゾーニングを有していたことを考慮すると、町家や寺町の調査のみでは不十分であることは明らかである。武家地についても遺構調査を行い、武家長屋の残存状況を明らかにしようと考えたが、これも実現できなかった。

リストには建築のみではなく、景観、記念碑、史跡（城跡）なども含めた。また建築のうち年代の新しいものでも上越の建築の伝統を考える上で注目すべき存在と考えたものは例外的に掲載した。復元城郭である高田城三重櫓、植木医院がこれに該当する。上越市内で建築されながら今日では愛知県犬山市の明治村に移築されている旧小熊写真館、東京都大田区から高田へ移築されてきた小林古径邸も掲載した。

3. リストの構成

便宜上からリストは次のような大きな分類に従って配列した。追って訂正を行なう機会が訪れるまでの仮のものである。

- ・高田の町家（72件）
 - 南本町、大町、東本町、仲町、その他
- ・高田城内および旧武家地の諸建築（5件）
- ・高田周辺の近代建築（12件）
- ・高田の寺社（16件）
 - 寺町とその門前・寺町以外
- ・直江津の諸建築（17件）
- ・五智・春日山・国府などの諸建築（11件）
- ・中ノ俣の建築（8件）

なおリストに載せた物件の概ねの位置がわかるように末尾に地図を付け加えた。

高田の町家（南本町）



No. 1 MAP1
 名称：店舗兼住宅
 住所：南本町 1
 間口 2 間半。奥は昭和 6 年、手前側は昭和 26 年の建築。通り側の店舗（酒舗）と、奥にある居住部分との間に小さな吹抜空間があり、専ら靴を脱ぐ場所（上り口）となっている。吹抜上部には渡廊下と天窓がある。



No. 2 MAP1
 名称：住宅（空家）
 住所：南本町 1
 間口 5 間、『住宅地図』には「空家」とあり、現在も空家。「ヨリキ」という名の質屋で、かつては有力な商家であったという（石崎商店での聞き取り）。外部の建具などは粗悪な後補品であるが、間口は広い。天窓あり。



No. 3 MAP1
 名称：住宅
 住所：南本町 1
 間口 3 間半。屋根上に片流れの採光装置（東向）がある。向かって右側の通り土間は、一番手前の室の奥側の筋に建具が入る。



No. 4 MAP1
 名称：住宅
 住所：南本町 1
 旧青果店。間口 5 間。明らかに戦前の建物。間口が広く、2 階の硝子窓の棧も装飾的で、なかなか立派な構え。



No. 5 MAP1
 名称：旧住宅（倉庫）
 住所：南本町 1
 間口 3 間。建立年不詳（戦前のものであろう）。向かって 2 軒左隣に店を構えている石崎商店（魚屋）の倉庫。1 階は床が取り払われてしまっているが、鴨居が残っており、かつての平面の推定が可能。吹抜・渡廊下あり。吹抜の採光は、ほぼ中央上部にある天窓および南側妻壁の窓による。吹抜小屋材に墨書あり。



No. 6 MAP3
 名称：住宅
 住所：南本町 2
 間口 2 間。所有者の話によると 100 年は経つとのこと。もとは染屋を営んでいた。屋根面に天窓がある。天井を塞ぎ、上を物置として使っている。小屋材が少々煤で汚れており、かつては囲炉裏があったのではないかと推測される。



No. 7 MAP3
 名称：住宅
 住所：南本町 2
 所有者の話によると、100 年以上前の建物とのこと。囲炉裏もそのまま残っていて、吹抜は煤で相当に汚れている。棟を切り上げて採光を行なう。渡廊下がついているが、他の場所に比べて汚れ方が少ないので、後付けかもしれない。



No. 8

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：南本町 2

間口 3 間。三代前から豆腐屋を営み、少なくともその創業以降は建て替えはないという。棟を切り上げて設けた天窓は、通り土間の上であり、その下で油揚げを揚げている。天窓は採光のためではなく、煙出しのために使っている。吹抜はチャノマの上にある。

No. 9

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：南本町 3

間口 2 間半。かつてチャノマ上に吹抜があったという。昭和 55 年に裏部分を建替え、吹抜もふさいだ。



No. 10

MAP3

名称：住宅

住所：南本町 3

昭和 2、3 年頃の建築。その後に吹抜を改造し、上部を居室化。この時に創建当初の梁材・小屋組を残しつつ、屋根高を上げており、新旧の部材の差は歴然としている。

No. 11

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：南本町 3

昭和 10 年頃の建築。昭和 60 年頃の改造で吹抜であったチャノマに天井を張った。上部は居室化せず、2 階では小屋組が露出している。正面入口上部の嵌め殺しガラス窓には組子風の意匠が見られる。



No. 12

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：南本町 3

建築は昭和前期だと思われる。内部には随所に改造がある。

No. 13

MAP3

名称：住宅

住所：西本町 3

正面建具、内装ともに大改造。吹抜の梁組は内装材で隠されているが、上部の天窓は現在も使用されている。大地主の家を買い取ったという。基礎には石が使用されており、古さを感じさせる。



No. 14

MAP3

名称：住宅

住所：南本町3

昭和11年に建てられ、昭和51年に改造。チャノマ上部に吹抜あり。渡廊下あり。

No. 15

MAP3

名称：高橋飴屋（高橋孫左衛門氏宅）

住所：南本町3

現在の店舗は明治7年の火災の後、同8年に建てられたもの。詳細別記。



No. 16

名称：住宅兼店舗

住所：南本町3

明治終～大正初の建築。間口セは以前畳敷きだった。

No. 17

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：南本町3

菓子舗。引っ越してきたのは昭和だが、建物は明治後期のものであるらしい。明治（もしくは大正）期は、柱を隣家（No.18）と共用していた。昭和25年頃に吹抜に2本の渡廊下を架けた。



No. 18

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：南本町3

「落し式」雁木。間口4間、奥行2間の広い吹抜がある。柱が太い。

高田の町家（仲町）



No.19

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：仲町1

昭和5年に建てられ、代々タバコ屋を営んでいる。吹抜の西側に神棚がある。チャノマには20年前まで小さいイロリがあった。5年前に吹抜が寒いので天井を張った。梁に「代牛水」という墨書が書かれてある。



No.20

MAP3

名称：住宅

住所：仲町1

現在は住宅でのみ使われているが、一代前はタンス屋で、またその一代前には土建屋であったという。土間は、土からコンクリートに改められ、現在はさらに板の間に改められている。吹抜、渡廊下がある。



No.21

MAP3

名称：工場兼住宅

住所：仲町1

細い車用の通路をはさんで店舗と工場が並んでいる。店舗は2~30年前に建てたもので、以前には吹抜があった。工場は江戸後期から明治初期に建てられたものである。ミセには現在も藍染めの壺が置いてある。



No.22 MAP3

名称：住宅
住所：仲町3
明治頃の建物。元は吹抜・廊下・蔵があったが、昭和40年の火災によりチャノマより奥を焼失。魚屋 製麺業 タバコ屋へと生業変化。

No.23 MAP3

名称：工場兼住宅
住所：仲町3
製麺所。明治頃建設。大正期は魚屋だったが、昭和に入り隣の主屋を売却した。住居兼工場の建物は当初は物置として利用されていた。

No.24 MAP3

名称：住宅
住所：仲町4
旧桶屋。19世紀中頃。「造り込み式」雁木。『越後高田の雁木』、『越後の民家』所載。



No.25 MAP3

名称：住宅
住所：仲町3
間口2間半、梁には檜、貫には松材を使用。井の字型に檜梁が渡される。吹抜、アルキ（渡廊下）階段が残る。1階のミセは壁で仕切り、古本屋に店舗として貸している。

No.26 MAP3

名称：住宅
住所：仲町6
雁木に木造の洋風柱と鉄製の軒飾りを施している。雁木のデザインの豊かさを考えるうえで注目に値する。



No.27 MAP3

名称：住宅
住所：仲町6
綿屋。「造り込み式」雁木。天窗・吹抜・渡廊下・囲炉裏あり。吹抜（土間）上部の板壁は煤が付いている。新潟大の調査図面あり。

No.28 MAP3

名称：住宅
住所：仲町6
仏壇屋。吹抜・渡廊下・天窗・掘りコタツ・3つのヘツツイあり。新潟大の調査を受けたという。

高田の町家（本町・北本町）



No. 29 MAP3
 名称：店舗兼住宅
 住所：北本町 1
 天保 15 年（1844）創業。昭和 7 年（1932）に火災により改築。現在も味噌などの製造を行う、活きた町家である。瓦葺。雁木通りには石畳も残る。



No. 30 MAP3
 名称：店舗兼住宅
 住所：本町 2
 昭和初期頃の建築か。八角形断面のモルタル製雁木柱が目を引く。雁木のデザインの豊さを考えるうえで注目に値する。



No. 31 MAP3
 分類：住宅
 住所：本町 2
 明治 2 年建築。かつては遊郭であった。奥は昭和 38 年に建替えられた。2 階の階段上の手摺は後世に移動した。吹抜部分は 1984 年頃改装。貫・柱なども修理された。隣家を買取り、間口方向に平面が拡大。



No. 32 MAP3
 名称：店舗兼住宅
 住所：本町 2
 木造 3 階建。雁木柱は洋風の意匠。旧遊廓建築との伝聞もあるが未詳。雁木通りに懸けられた古い文房具関係の看板が味わい深い。



No. 33 MAP3
 名称：店舗兼住宅
 住所：本町 2
 1880 年頃建築。渡廊下は 1920 年頃に設置。かつて置屋として使われており、土間には当時付けられた装飾模様が見られる。



No. 34 MAP3
 名称：倉庫
 住所：本町 6
 大島電機（No. 35）の右隣。旧呉服屋という。吹抜、渡廊下がある。採光は天窓から行い、紐で開閉する回転窓が今も残る。現在は床が取り払われ、倉庫として使用されている。



No. 35 MAP3
 名称：店舗兼事務所
 住所：本町 6
 明治 28 年の建物。吹抜あり（現在は天井を張る）。渡廊下はない。2 階の外装（窓や軒飾り）および表二階の内装は洋風。もとは牛丸という軍御用の牛鍋屋だった。背後に座敷などが残る。ドンデン返しによって出入りする密談用の部屋があったという。





No.36

MAP3

名称：住宅

住所：本町 6

「落し式」雁木。吹抜・渡廊下あり。棧瓦葺。現在上越市が所有。



No.37

MAP3

名称：住宅

住所：本町 7

吹抜・渡廊下などを有する伝統的な町家を改装して使用している。町家の良さを活かした改造例として注目に値する。



高田の町家（大町）



No.38

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：大町 5

間口 3 間。米屋は 4 代目といい、築 100 年ほどの建築と思われる。修理が近年に加えられたらしく、内装はきれい。吹抜に突出した大きな天窓があり、四方に窓がついているのでかなり明るい。当初のものは不明。



No.39

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：大町 5

間口 3 間。もとは桶屋で、昭和 20 年代に現所有者が購入したため、詳しいことは分からない。現在は、チャノマ部分を既存の壁の内側に新に天井壁を作り、店舗として貸している。ご主人夫婦は敷地の奥に新築を建ててそこで住んでいる。道路側に明り採りの天窓があったが、現在は塞いでしまっている。背面側に棟を切り上げて設けた天窓があるが、煙出しのためのものだったらしい。



No.40

MAP3

名称：工場兼住宅

住所：大町5

「落し式」雁木。奥に工場を新築。昭和30年に土間をコンクリート敷きをしている。2階の渡廊下の手すりに装飾が付いている。天窓はあまり大きくはないが、採光がうまく出来ており、チャノマは思いのほか明るくなっている。中庭有り。



No.41

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：大町5

間口2間、車庫有り。上部に棟切り上げの採光有り。吹抜は2階にあるとのこと(2階は未調査)。

No.42

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：大町5

「落し式」雁木。現在土間は拡張されてコンクリート敷に改められ、車庫として使われている。かつては吹抜があったが、現在は天井が張られている。土間の上階は居間として利用している。



No.43

MAP3

名称：店舗

住所：大町5

「落し式」雁木。伝統的な高田の町家平面をもつ。チャノマの吹抜では、冬は暖かい空気が上部に逃げないように、半透明のプラスチック板を入れた仕切りで閉鎖できるようにしてある。通風および採光における伝統形式の長所を残すよう配慮した改善策である。チャノマの奥には中庭に面したザシキがある。



No. 44 MAP3
 名称：住宅
 住所：大町 5
 旧染物屋（中島染物）。新潟県新井市から移築してきたものだという。移築に時期については、今の主人が 43 年前に婿入りしてきたときに、築 70 年であったというから、およそ 113 年前のこと。室構成は一般的な高田の町家と同じ。30 年ほど前にミセに床の間を設け、正面 1 間通りの床を取り除いて玉石敷風の土間とした。渡廊下を有する吹抜の室があるが、天井がはられており、梁などの小屋材は一切見えない。吹抜に天井を張るのは高田の町家では珍しい。



No. 45 MAP3
 名称：店舗兼住宅
 住所：大町 5
 19 世紀中頃の建物。現在は間口 7 間。「造り込み式」雁木の母屋とその北側の旧台所（間口 3 間、平屋）からなり、さらに母屋の南側に自動車の出入りが可能な空地（駐車場？）が取られている。『北越商工便覧』所載図では間口が 6 間だが、現在の 7 間に増えたのは南側のかつて庭であったところに 1 間分の増築を行ったためらしい。



No. 46 MAP3
 名称：住宅
 住所：大町 5
 間口 5 間。屋根・雁木ともに棧瓦葺。外装は改変著しいが、内部には質の高い造作がよく残っている。成の高い樺のさし物、太い黒柱、吹抜上方の梁材などは見応えがある。1 階は L 字形に 4 室があり、手前よりミセ、チャノマ、ザシキがー列に並び、ザシキの右手（すなわち土間正面）にドイン（土院）と称される畳敷きの室がある。2 階は表二階、裏二階それぞれ 2 室ずつがあり、廊下で繋ぐ。吹抜の採光は妻側壁の窓から行う。主屋の他に土蔵、離れ座敷がある。



No. 47

MAP3

名称：住宅の離れ座敷

住所：大町 5

昭和 4 年。主屋 (No. 46) 改築に先立って建設され、一時居住にあてられていたという。木造平屋建、内部は 2 室。床脇の付書院には組子障子が用いられる。建主の趣味の高さを伺わせる瀟洒な建築である。

高田の町家 (東本町)



No. 48

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

間口 2 間。上部に小屋型の構造物を持つ。



No. 49

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

間口 2 間。上部に箱型の構造物を持つ。



No. 50

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

No. 48 ~ 49 と同様、上部に構造物を持つ。この辺りはこのようなものが多いのではないかとと思われる。



No. 51

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：東本町 2

角地に建つ住宅兼店舗。二面に雁木が回され、出窓も二面につく。妻面は東西に走る通りに向けられる。全体を赤い色彩で統一しており、ランドマーク性を感じさせる。



No. 52

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

隣の住宅 (空家) と合わせ連続したファサードを持つ「造り込み式」雁木の住宅。内部調査は出来なかったため不明。



No.53

MAP3

名称：店舗兼工場

住所：東本町 2

昭和 22 年にこの一帯で発生した火事により前建築は焼失。以前は風呂屋を経営していたが、現在は酢・あんこ・乳製品を扱っている。現在の建築は木造で、屋根は棧瓦葺。かなり大きな敷地を持っている。聞き取りによると内部に吹抜はないらしい。



No.54

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：東本町 2

前出の町家（No.53）同様、昭和 22 この一体で発生した火事により前建築は焼失。亡くなったご主人がタンスを製造していた。現在は住宅としてのみ利用されている。1 階のミセ部分はかなり広い。ミセ上階は作業場として利用していた。神棚が天井面より上に突き出しており、そのため 2 階の床はそこだけ他の床面と段差があるそうである。



No.55

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

間口 3 間。少し改造してある。突出している明り採りは、側面からでなく屋根面から採光する。

No.56

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：東本町 2

間口 3 間。突出した採光の切妻屋根は隣の No.55 と向きが異なっている。



No. 57

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

間口 2 間。もとは最中屋さん。ご主人の父親が 17 代目。当時は、チャノマの部分は土間でそこに白があったらしい。壁は下の方はきれいに塗りなおしているが、上の方は煤で黒くなっている。



No. 58

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

間口 3 間。棟を切り上げ前面からの採光していた。外は覆われているが、中は障子のままで、何も手を加えていないらしい。

No. 59

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：東本町 2

古くから自転車屋。吹抜・渡廊下あり。もとは、屋根面の天窓から採光していたが、今はふさいで妻面から採光。新旧の材が混在する。



No. 60

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 2

間口 2 間。もとは 2 軒だったものを一つにつなげたので、吹抜の位置が通常と異なる。建具は手のこんだ作り。



No.61

MAP3

名称：店舗

住所：東本町 4

広い敷地を持ち、間口は4間ほど。最近修理が施されたよううかがえる。内部はきれいに直されている。広いミセ部分を現在も店舗として利用しているようである。吹抜上部の梁は他の部分と異なり黒く変色しているところから、おそらく古い部材をそのまま再利用したと思われる。



No.62

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：東本町 4

「落し式」雁木。屋根上に採光窓らしきものが突出しており、吹抜はありそうである。



No.63

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 4

間口 3.52m。外装の改変は大きい、近所の人に古い家であると教えられた。



No.64

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 4

間口 3間。「造り込み式」雁木。



No.65

MAP3

名称：住宅

住所：東本町 4

間口 3間。「造り込み式」雁木のような外観を呈すが雁木部分に2階はない。築 200年という。雁木通りから入る最初の室は珍しい造り。



No.66

MAP3

名称：店舗兼住宅

住所：東本町 4

間口 9尺と 10尺の隣りあう 2棟の町家を、壁を取り除いて 1棟として使用。正面側のみ残し、奥の半分は改築されている。柱に釘によるハツリが見られる点、正面柱にオトシが入られていた痕跡が残る点などから考えて、創建は近世まで遡るのではないかと考えられる。





No.67 MAP3

名称：住宅
住所：東本町 4
間口 3 間。「造り込み式」雁木。
礎石・下見板・連子窓などが残り、
外装の保存状態がよい。



No.68 MAP3

名称：住宅
住所：東本町 4
平屋の珍しい町家。かなり古そうである。



No.69 MAP3

名称：倉庫
住所：東本町 4
間口 2 間。「落し式」雁木。一階の床は取り払われているが、渡廊下は残っている。



No.70 MAP3

名称：住宅
住所：東本町 4
吹抜と渡廊下がある。屋根上部に切妻造、妻入の小屋状のものがあり、採光の役割をしているように見えるが未確認。



No.71 MAP3

名称：店舗兼住宅
住所：東本町 4
戦後の小規模店舗。明治元年に開業。昭和 34 年改築。吹抜はない。

高田の町家（その他）



No.72 MAP1

名称：大杉屋（飴屋）
住所：土橋 715
昭和 14、5 年の建築。前面に「落し式」雁木がつく。明治期の飴工場が併設される。 詳細別記。



No.

名称：朝市
住所：大町通り
高田大町通りでは二七の市、四九の市、直江津では三八の市が、地元住民に対して開かれる。通り一帯に仮設店舗が連なり、雁木を利用する場合もみられる。生鮮食料品や花などが中心。



高田城と武家地



No.73 MAP3
 名称：高田城三重櫓
 住所：本城町 6-1（高田公園内）
 高田城跡は県指定史跡。三重櫓は平成 5 年に上越市発足 20 年事業として建設された。規模は「高田城図間尺」、外観は「本丸御殿絵図」を参考とし、木質構造にて復原。内部は展示施設。



No.74 MAP3
 名称：小林古径邸
 住所：本城町 7-1（高田公園内）
 吉田五十八設計、棟梁岡村仁三。昭和 9 年竣工。木造 2 階建、棧瓦葺。平成 10～13 年に東京都大田区南馬込より移築。



No.75 MAP3
 分類：関野貞碩学碑（記念碑）
 住所：本城町（高田公園内）
 昭和 15 年。伊東忠太設計、法隆寺貫首大僧正佐伯定胤書。旧高田中学校庭跡地に建立。碑文の周囲に雲紋の線刻が施される。



No.76 MAP3
 名称：旧武家長屋？
 住所：西城町 3-11-46
 下級藩士の暮らしていた長屋の遺構と目される。『高田市史』（新版）には昭和 27 年 8 月現在において「文久安政年間の高田家中之図（高田図書館蔵）所載の武家長屋のうち、約 85%が残っていたとあるが、現在は絶滅の危機に瀕している。現存するものについては調査・保存の措置をとるべきであろう。」



No.77 MAP3
 名称：旧武家地の景観
 住所：西城町 3、大手町
 旧武家地は近代になってからは良質な住宅地へと変貌するケースがあるが、高田においてもこのことがあてはまる地区がある。農商務大臣荒井賢太郎邸跡（写真中央）および藤林内科（右）の東側の通りでは玉石垣と生垣が通りに閑静な雰囲気を与えている。



高田周辺の洋風近代建築



No.78 MAP3
 名称：第四銀行高田支店
 （旧百三十九銀行本店）
 住所：本町 3-3-2
 昭和 6 年（1931）清水組設計・施工、RC 造。第百三十九国立銀行は明治 11 年設立され、本店は高田（旧呉服町）にあった。同 31 年に株式会社百三十九銀行と改称、昭和 18 年 3 月 29 日に第四銀行に買収・統合された〔高田市史（2）P401〕昭和初期に全国的に流行した古典様式の銀行建築であるが、正面に同様の意匠を用いた「雁木」がついているのが特異であった。現在ではこの「雁木」は撤去され、鉄骨製の陳腐なものに置き換えられてしまっている。それでも内装はよく保存されており、高田を本店とする銀行がかつてあったことを物語る貴重な文化財といえる。



No.79 MAP3
 名称：細巾会館
 （旧瀬尾原始邸洋館）
 住所：西城町 1
 大正 2 年（1913）設計者・施工者未詳。木造 2 階建、瓦葺。知命堂病院初代院長の瀬尾原始氏が本邸の離れの応接室として建築。昭和 35 年からはパテンレースなどを製造する業者らでつくる県細巾織物協同組合会館として使用。昭和 40 年に売りに出されて以来、同組合が維持管理してきた。（株）サトコウが購入したが、上越市へ寄贈。市では、高田公園内（旧高田図書館跡）へ移築して文化資料館として使用する計画があるという。民間の洋風住宅建築の遺構として貴重。



No.80 MAP3
 名称：旧師団長官舎
 住所：大町 2-3-30
 明治 43 年（1903）加藤栄太郎設計、高島組（高島順作）施工、木造 2 階建。陸軍第十三師団の長官であった長岡外史の邸宅として建てられ、その後は旅団長官舎、米軍駐留、自衛隊幹部宿舎などに用いられ、現在は大町 2 丁目に移築され、公開されている。旧所在地は南城町 3 丁目。外観は洋風を主体としているが、棧瓦の使用には日本的な要素の混入を認められる。内部も一階がほぼ洋間で占められているのに対し、二階は和室に宛てており、和様の折衷が認められる。なお現在、旧師団長官舎が移築されている敷地は旧市長公舎跡地であるといい、裏手には和風庭園が残る。江戸時代の武家地から、近代へと引き継がれた閑静な住宅地の伝統が感じられる。



No.81 MAP3
 名称：大町小学校
 住所：大町 3-2-32
 RC 造 3 階建、塔屋付。昭和 4 年竣工、高田最初の RC 校舎。体育館（運動場）も同時のもの。当時は校名を高田第三尋常小学校といった。建築時の図面が伝わり、長野宇平治が関与したらしきことがわかる。



No.82 MAP3
 名称：東北電力上越営業所
 住所：大町 2-2-24
 RC 造 3 階建。旧中央電気会社本社として昭和 3 年 2 月 11 日落成。同社の創立 20 周年を記念して改築されたもので、高田における最初の RC 建築。外装の改変が著しく、入口も当初とは異なる位置にある。



No.83 MAP3
 名称：小熊写真館
 住所：本町 3-1-2（明治村へ移築）
 明治 41 年頃。木造 2 階建。1 階に応接室・暗室・住居、2 階に北向きガラス屋根をもつ写場がある。現在は愛知県の明治村へ移築。「移築に際して、正面突出部分のほかは創建時の姿の復元に努めた」という。



No. 84 MAP3

名称：高田日活（映画館）
住所：本町 6-4-21
明治 44 年。設計野口孝博。現在は成人映画を放映する映画館となっているが、もともとは芝居小屋（高田座）で、地下には廻舞台の遺構があるという。ファサードの改造大。



No. 85 MAP3

名称：飯塚組建設（飯塚邸）
住所：西城町 1-12
昭和初期頃の建築か。木造 2 階建、マンサード屋根。



No. 86 MAP3

名称：日本聖公会高田降臨教会および附属のもみじ幼稚園
住所：西城町 3-9-17
築 63 年（2001 年における聞き取り）。礼拝堂のポーチ部分にある紅葉をかたどった小さな丸瓦が愛らしい。上越に残る唯一の戦前の教会建築である。



No. 87 MAP3

名称：ウエカツ工業株式会社（工場）
住所：幸町 13-8
昭和 10 年頃に名立で小学校校舎として建てられたものを、同 17 年に移築。木造 2 階建、棧瓦葺。旧校長室の内装も残る。ウエカツ工業は昭和 18 年創業。パテンレースの技術を発展させガラス繊維などを生産する。



No. 88 MAP1

名称：岩乃原葡萄園 第二号石蔵
住所：北方 1223
市指定文化財。明治 31 年。川上善兵衛が欧米の専門書をもとに設計したワイン醸造・貯蔵用の石蔵。大工は古市新十郎。冬期に雪の冷却力が利用できるよう工夫がなされているという。



No. 89 MAP3

名称：植木医院
住所：本町 1-4-8
平成に入ってから建築とみられるモダニズム風の病院建築。本棟から独立して鉄骨造の雁木通りが設けられる。雁木付の建築につきまとう駐車場の問題、意匠の現代化の問題などに一つの解答が与えられている。

高田寺町とその門前



No. 90 MAP3
 名称：浄興寺本堂（寺院）
 住所：寺町 2-6-45
 重要文化財。延宝 7 年（1679）建立で、元禄 10 年 1697 頃までかけて徐々に完成された。入母屋造、こけら葺。桁行 28.2m、梁間 27.8m、大規模な浄土真宗本堂で、県下最大の寺院建築。現在修理工事中。



No. 91 MAP3
 名称：浄興寺本廟唐門・透垣（寺院）
 住所：寺町 2-6-45
 市指定史跡である「本廟」には親鸞の頂骨が納められているという。その前面に建つ向唐門は、明治 15 年起工、同 21 年 6 月竣工。柏崎の名工篠田宗吉が棟梁をつとめた。唐門には鯉の滝登り、竜、唐獅子など、また透垣にはつがいの鳥などの彫刻装飾が施されるが、携わった彫師は未確認。繊細な装飾は市内随一のものであるが、破損が目立つため早急な措置が望ましい。



No. 92 MAP3
 名称：東本願寺高田別院山門（寺院）
 住所：寺町 2-24-5
 享和 3 年（1803）の火災で前身門が焼失、文政 5 年に再建着工、文政 10 年（1827）竣工。入母屋造、単層、棧瓦葺、八脚門。冠木上中備や尾垂木などの竜、十二支の墓股など、豊かな装飾彫刻を有する。仲町方面から続く通りのアイストップとしての役割を十分に果たしている。



No. 93 MAP3
 名称：天崇寺山門（寺院）
 住所：寺町 2-19-5
 市指定文化財。延宝 2 年（1674）建立。高麗門、袖壁・潜戸付。『頸城郡誌稿』には「長恩寺（今八天崇寺ト号ス）ノ門ハ高田城諸躰出門ト同様ノ造ナリ」とある。



No. 94 MAP3
 分類：善行寺本堂
 住所：寺町 3-5-35
 『近社寺』二次調査対象。日蓮宗。18 世紀末から 19 世紀前期にかけて殆ど再建に近い大修理を受けたらしい。桁行 56.33 尺、梁間 56.34 尺。



No. 95 MAP3
 分類：日朝寺本堂
 住所：寺町 3-5-43
 『近社寺』二次調査対象。日蓮宗。18 世紀中期。桁行 48.41 尺、梁間 43.17 尺、寄棟造、鉄板葺。



No. 96 MAP3
 分類：日朝寺毘沙門天堂
 住所：寺町 3-5-43
 『近社寺』二次調査対象。享和 2 年（1802）桁行 6 間、梁間 3 間、正面向拝 1 間、唐破風付、入母屋造、妻入、棧瓦葺。



No.97 MAP3
名称：日枝神社社殿（神社）
住所：寺町 3-1
明治 12 年（1879）神明造の複合社殿。



No.98 MAP3
名称：宇喜世（料亭）
住所：仲町 3-4-5
寺町浄興寺の門前通りと仲町の交差する位置にある。百年以上の歴史をもつ老舗の高級料亭。木造 3 階建の座敷や茅葺の門が目を引き。仲町側の門にはユニークなダルマの額が懸かる。



No.99 MAP3
名称：長養館（料亭・旅館）
住所：寺町 2-1-8
寺町浄興寺の門前通りに面する。もと高田町田端（仲町 3-3-21）にあり吉原屋といった。明治 26 年に現在地へ移転。師団の鼻痕などにより営業。平成 6 年に大規模な模様替えを行なったが、軸組・間取はそのままである。庭園もある。

高田（寺社、寺町除く）



No.100 MAP3
 名称：榊神社社殿（神社）
 住所：大手町 4-12
 神明造風の社殿。榊原康政を祭神として明治 9 年（1876）1 月に創立され、同年 7 月に竣工した。康政は江戸初期に徳川家四天王の一人と数えられていた譜代大名で、榊原藩の藩祖とされる。榊原家は寛保元年（1741）に高田へ入封（石高 15 万石）した。明治 4 年の廃藩置県により榊原家が江戸へ移ると、旧藩士が藩祖の遺徳を追慕して、場外大手前元藩主別邸跡（対面所）に社殿を建立した〔以上『高田市史』〕。神体は康政の鎧であるという。境内には高田城大手門の礎石もある。



No.101 MAP3
 名称：国巖寺大仏殿（寺院）
 住所：北本町 3-3-1
 通称「陀羅尼大仏」。永禄 2 年（1559）旅僧仏元が「波除陀羅尼塚」を築造し、大仏を造営。宝永 5 年（1708）このころの大仏は三丈一尺（約 10.2m）あったという。元治元年（1864）焼失し、明治 15 年、丈六の盧遮那仏を高田の仏師吉岡慶作ら 4 人が制作。大仏殿（現存堂）は大正年間再建。



No.102 MAP3
 名称：河波良神社本殿・摂社社殿（神社）
 住所：仲町 2-9-17
 本殿は一間社流造、覆屋内に建つ。側面に農耕を題材にした羽目彫刻あり。また獅子などの彫刻を礎盤とするのも珍しい。建立年未詳。境内に近代建立とみられる神明造系複合社殿による摂社もある。



No.103 MAP3
 分類：南町神明宮社殿（神社）
 住所：南本町 2-6-30
 天正 11 年（1583）春日山に創立後、福島、出雲町を経て寛永 3 年（1626）現地へ。現社殿は文政 11 年（1828）建立。



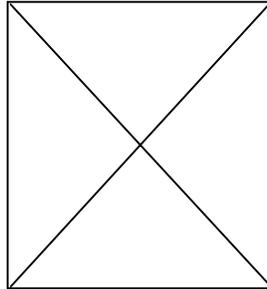
No.104 MAP3
 名称：陀羅尼八幡宮社殿（神社）
 住所：北本町 2
 近代の建築。棧瓦葺の神明造社殿。本殿大棟の両隅には鯨がのる。



No.105 MAP3
 名称：善念寺本堂（寺院）
 住所：東本町 3-2-51
 建築年未詳。置屋根、土蔵造の本堂。ただし外壁はコンクリートをペンキで白く塗ったものに改められている。内部の欄間彫刻、梁などは見事。



直江津



No.106 MAP2
 名称：八坂神社社殿（拝殿・本殿）
 住所：西本町 4-2-25
 流造の本殿は享保 6 年（1721）入母屋造の拝殿は天保 14 年（1843）建立。『直江津町史』によると、拝殿の彫物は直江津の高橋富吉（初代、1790～1859、通称「彫富」）作。

No.107 MAP2
 名称：竜泉寺本堂（寺院）
 住所：中央 2-1-11
 曹洞宗。土蔵造本堂。
 [写真なし]

No.108 MAP2
 名称：勝蓮寺本堂（寺院）
 住所：中央 2-4-1
 浄土真宗本願寺派。土蔵造本堂。『直江津町史』によると欄間彫刻の内、中央三枚は直江津出身の彫物師、高橋富吉（二代、1827～81）の作（左右各二枚は弟子の作）。



No.109 MAP2
 名称：聴信寺本堂（寺院）
 住所：中央 3-9-7
 真宗大谷派。明治 41 年焼失後の再建か。土蔵造本堂。詳細別記。

No.110 MAP2
 名称：真行寺本堂（寺院）
 住所：中央 5-1-1
 浄土真宗本願寺派。寛文 8 年（1831）建立、明治 38 年に土蔵造に改造。詳細別記。

No.111 MAP2
 名称：真行寺鐘楼（寺院）
 住所：中央 5-1-1
 明治 17 年（1884）、四脚の鐘楼。入母屋造、本瓦葺（旧茅葺か）。竹に虎（欄間）などの彫刻あり。



No.112 MAP2
 名称：真行寺経蔵（寺院）
 住所：中央 5-1-1
 文政 10 年（1827）、土蔵造、下見板貼の覆屋付、切妻造、銅板葺。向拝唐破風に獅子（中備）・鳳凰（懸魚）の彫刻あり。

No.113 MAP2
 名称：観音寺本堂（寺院）
 住所：中央 5-2-46
 曹洞宗。大正 12 年（1923）から昭和 3 年（1928）にかけて再建。土蔵造本堂。向拝に龍の鏝絵あり。詳細別記。



No.114

MAP2

名称：高達回漕店事務所

住所：中央 3

旧直江津銀行、明治 25 年頃[日本近代建築総覧]。和洋折衷の独特な建物。木造だが、外装をタイル貼とし、隣家との境に煉瓦造の耐火壁を有する。

No.115

MAP2

名称：林正寺本堂（寺院）

住所：住吉町 1-1

真宗大谷派。大正 4 年（1915）11 月上棟。土蔵造本堂。詳細別記。



No.116

MAP2

名称：住吉神社（神社）

住所：住吉町 5-15

大阪の住吉大神宮から分霊。八坂神社境内に祀られていたが、天正 8 年（1580）に現在地に建立。現在の社殿は明治 12 年造営の神明造。

No.117

MAP2

名称：直江津大神宮（神社）

住所：中央 2-3-47

明治 24 年、神宮分教会所として地方庁の許可のもと創建。社殿も同年造営。

直江津の座敷蔵



No.118

MAP2

名称：住宅（座敷蔵）

住所：中央 2

座敷蔵は 2 間半×2 間。石田荘八郎氏が建てたといひ、小屋梁には明治 39 年という墨書がある。昭和 20 年ぐらいまで糸屋を営んでおり、火事のと看店のをすべて運び入れるために座敷蔵を造ったという。ミセの部分が現在はガレージとなっており、そのすぐ奥に座敷蔵の入口がある。昭和 60 年までは 1 階は座敷、2 階は倉庫だったが、現在は 1・2 階とも物置として使用。貴重な遺構である。



No. 119

MAP2

名称：住宅（座敷蔵？）

住所：中央 5

座敷蔵 2 間半×3 間。以前は 1、2 階とも蔵（物置）であったが、現在、1 階は応接室、2 階は物置として使用。「明治四十四年棟梁長澤興作」という墨書が小屋梁にある。蔵だったときには入口は北側にあったが、昭和 27 年頃住宅部分を建てた時に現在の南側の入口を開けた。内部に階段あり。2 階の南側入口は以前からあった。



No. 120

MAP2

名称：住宅（座敷蔵？）

住所：中央 3

旧尾五屋商店（海鮮問屋）だという。調査時には選挙事務所として使用中。通りに面して主屋（左）とミセ蔵（右）が並んで建つ。主屋のチャノマに吹抜があり、採光は側壁から行っている。ミセ蔵は下見板で覆われ、内部は 2 階に上る階段があって、2 階は物置で、明治 40 年という墨書があった。また主屋の奥にもう一つの蔵がある。この蔵はもとは正面（ミセ側）に入口があり、土間から入るようになっていたが、現在は内部を改装して座敷になっており、正面の入口を塞いで、側面から入る。二つの蔵とも当初の使用形態は不明。



No. 121

MAP2

名称：商店（座敷蔵の扉）

住所：中央 3

新しい建物。以前は座敷蔵があったが、奥川河口工事で、座敷蔵・ミセ蔵・雁木を壊した。現在は座敷蔵の扉だけが室内に残っている。

No. 122

MAP2

名称：楽之軒（料理店、座敷蔵）

住所：中央 4

座敷蔵は 2 間半×2 間。昭和 50 年まで 1 階は仏間、2 階は物置であった。住宅だったが平成 10 年から料理屋をはじめた。小屋梁に「大正二年四月五日」という墨書がある。蔵の前には雁木があったという。

春日山・五智・国府など



No. 123 MAP1
 名称：五智国分寺三重塔（寺院）
 住所：五智 3-20-21
 県指定文化財。安政 3 年（1856）
 着工、慶応元年（1865）上棟。た
 だし二・三層の高欄などは未完
 成。宮大工曾武川常右衛門・江崎
 長三郎。彫刻は高田の石倉正義。
 瓦および相輪には地元で焼かれ
 た「五智焼」を使用か。墓股の彫
 刻も質が高く、十二支、中国十二
 孝（二十四孝のうち）などがみら
 れる。特に初層にある十二支のう
 ち戌（犬）の墓股彫刻には玉眼が
 挿入されており、珍しい。



No. 124 MAP1
 名称：五智国分寺山門（寺院）
 住所：五智 3-20-21
 市指定文化財。仁王像を安置する八
 脚門。天保 6 年（1835）、「五智焼」
 の瓦を使用か。



No. 125 MAP1
 名称：五智国分寺経蔵（寺院）
 住所：五智 3-20-21
 市指定文化財。元禄 6 年（1693）上棟
 [棟札] 市内では最古級の建築の一
 つ。



No. 126 MAP1
 分類：居多神社社殿（神社）
 住所：五智 6-1-11
 式内社。越後ノ宮。親鸞聖人上陸地
 の西方にあった境内が明治 12 年に海
 岸侵食により崩壊したため現在地に遷
 座。のち火災で焼失し、仮社殿で今日
 に至る。



No. 127 MAP1
 分類：春日山城跡
 住所：春日山 1、中屋敷など
 国指定史跡。16 世紀に築かれた上杉
 謙信の居城。山城。平成 8 年に一部
 が「史跡広場」として整備され、土
 塁・堀・番小屋が復原された。



No. 128 MAP1
 分類：春日山神社社殿（神社）
 住所：中屋敷
 明治 23 年（1890）[明治 30 とも]に
 高田藩士小川澄晴（小川未明の父）
 が前島密（郵便の父）の協力を得て、
 米沢の上杉神社より分霊したもの。
 総樺の神明造の社殿は、明治 34 年に
 完成。平成 13 年改築。



No. 129 MAP1
 名称：林泉寺総門（寺院）
 住所：中門前 1-1-1
 市指定文化財。春日山城の裏門を移築
 したという伝承を持つ茅葺の四脚門。
 建立年不詳で、室町～江戸初期と推測
 されている。市内最古の木造建築か。



No. 130 MAP1
 名称：林泉寺山門（寺院）
 住所：中門前 1-1-1
 大正 14 年（1925）三間一戸二重
 門。時代は新しいが、高い水準の
 作品。



No.131 MAP1

名称：本願寺国府別院本堂（寺院）
住所：国府 1-7-1
市指定文化財。文化 2 年（1805）の建築。内陣には極彩色の装飾がみられ、格天井にも彩画がなされている。昭和 2 年に葺替工事あり。平成 12 年にも 70 年ぶりの修理工事が行なわれ、基礎・屋根・外壁などの改修がなされた。

No.132 MAP1

分類：光源寺本堂（寺院）
住所：国府 1-4-1
真宗大谷派。本堂は入母屋造、棧瓦葺。堂内中央の厨子に親鸞聖人真影を掛け、右側に本尊を安置し、御影堂・阿弥陀堂の両堂を兼ねるもの。建立年未確認。

No.133 MAP1

分類：最光寺本堂（寺院）
住所：南方 1556
『近社寺』二次調査対象。曹洞宗。18 世紀中期。桁行 62.00 尺、梁間 46.18 尺、入母屋造、鉄板葺。虹梁絵様に特異に発達した形式を示す。

中ノ俣



No. 134 MAP1
 名称：氣比神社（神社）
 住所：中ノ俣 223



No. 135 MAP1
 名称：住宅
 住所：中ノ俣
 天保期（19世紀前期）に建設したとされる。資料 参照。



No. 136 MAP1
 名称：住宅
 住所：中ノ俣
 家蔵史料より、天正5年（1785）建設との記録あり。
 資料参照。



No. 137 MAP1
 名称：下室ミチ家（住宅）
 住所：中ノ俣 271
 中ノ俣で最も古い住宅と言われ、建築年代は18世紀中期もしくは19世紀前半と推定されている。詳細別記。



No. 138 MAP1
 名称：住宅
 住所：中ノ俣
 本屋、中門ともに寄棟造。



No. 139 MAP1
 名称：住宅
 住所：中ノ俣
 下手が改造されているが、構造は元の状態と思われる。

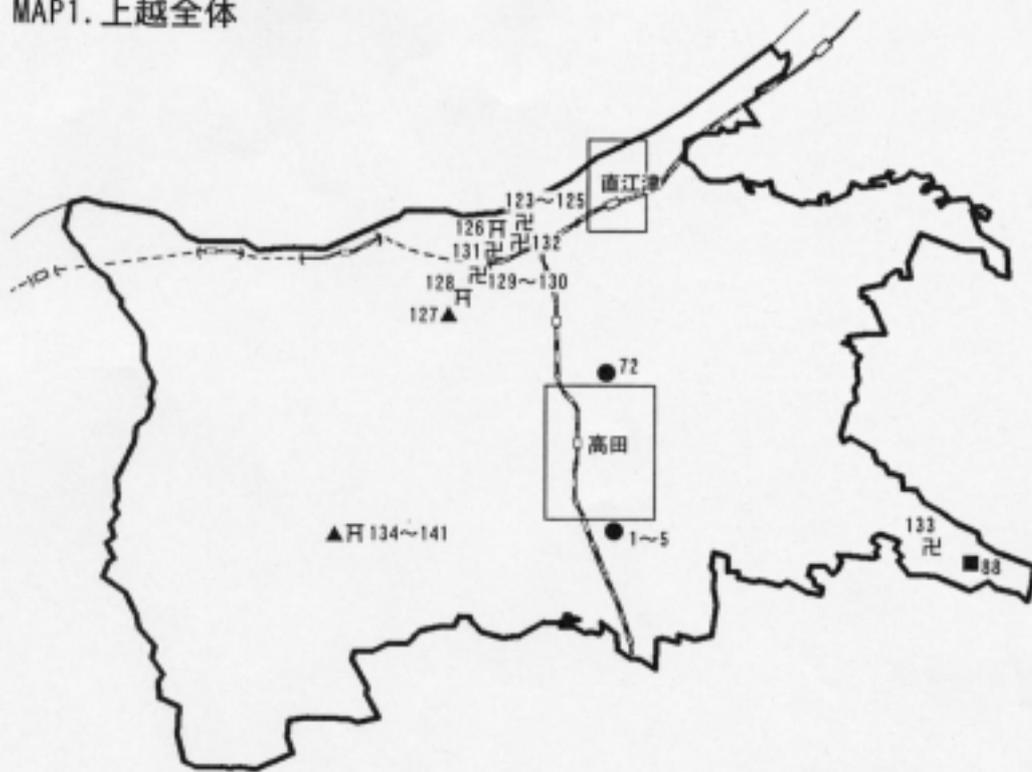


No. 140 MAP1
 名称：住宅
 住所：中ノ俣
 近世の建築と思われる。本屋、中門ともに寄棟造。水まわりを除くと改造が少なく、保存状態が良い。ウマヤの遺構もみられる。



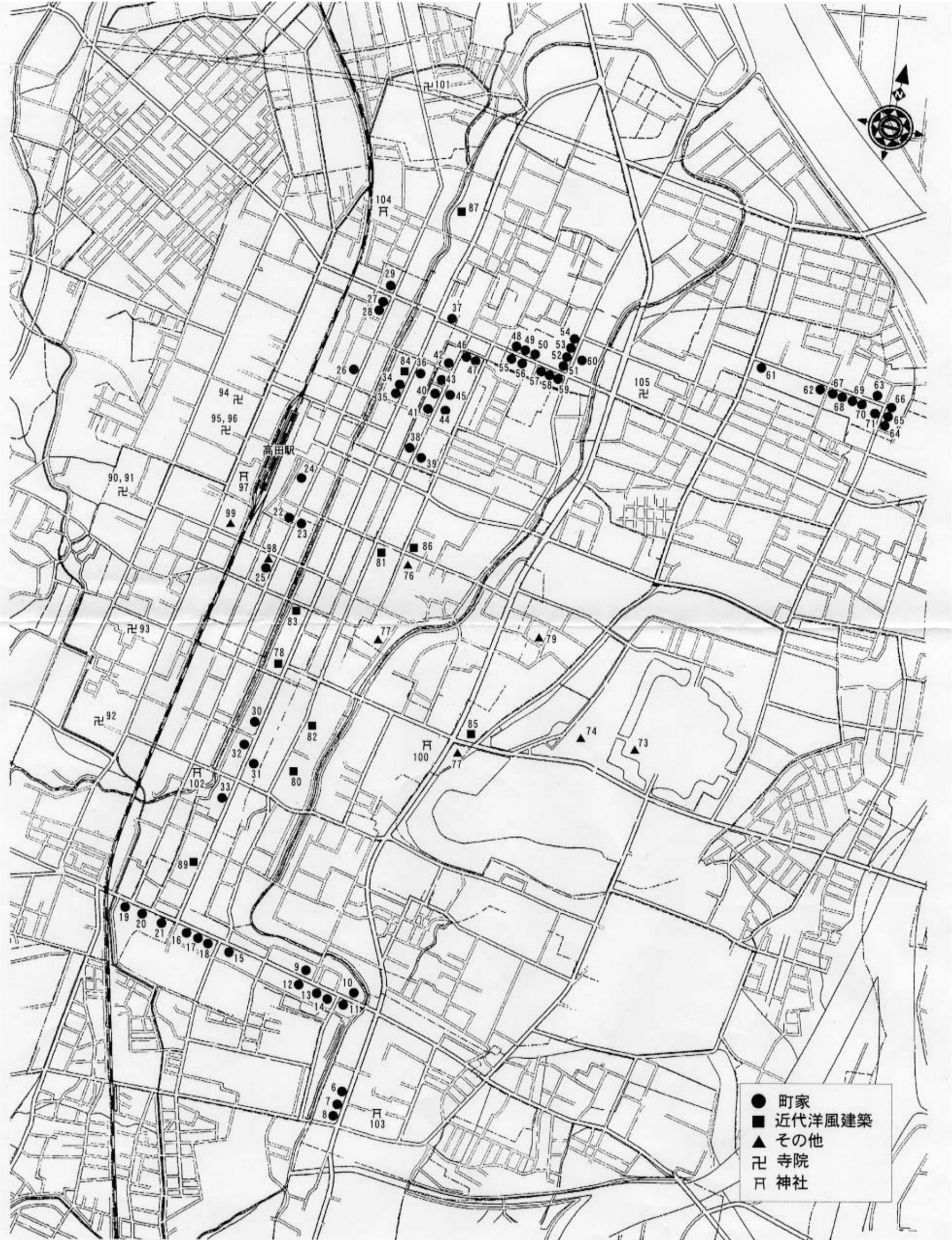
No. 141 MAP1
 名称：太仲院（寺院）
 住所：中ノ俣

MAP1. 上越全体



MAP2. 直江津





- 町家
- 近代洋風建築
- ▲ その他
- ⊖ 寺院
- ⊖ 神社

参考文献目録

[地誌・地方史など]

- 『訂正 越後頸城郡誌稿』上・下巻、越後頸城郡誌稿刊行会編、豊島書房、昭和 44 年
川崎源太郎『北越商工便覧』明治 22 年（『絵で見る明治商工便覧』第四巻、ゆまに書房、昭和 62 年、収録）
『高田市史』新潟県高田市教育会編、高田市役所、大正 3 年
『高田市史』第一巻、高田市史編集委員会編、高田市役所、昭和 33 年
『高田市史』第二巻、高田市史編集委員会編、高田市役所、昭和 33 年
白金賢瑞『直江津町史』直江津町役場、昭和 29 年（再版：文献出版、昭和 50 年）
『上越市史 普及版』上越市史編さん委員会編、上越市、平成 3 年
『上越市の文化財』上越市教育委員会、平成 11 年
『新潟県の地名』日本歴史地名大系第 15 巻、平凡社、昭和 61 年
『平成 12 年度 上越市 雁木のまち体系的整備調査』上越市都市計画課、平成 13 年

[建築史など]

- 上田篤・土屋敦夫編『町屋 共同研究』鹿島出版会、昭和 50 年
『越後の民家 -上越編- 新潟県民家緊急調査報告Ⅰ』新潟県教育委員会、昭和 55 年
『宿根木 伝統的建造物群保存対策調査報告』新潟県佐渡郡小木町、昭和 56 年
『越後高田の雁木』上越市教育委員会、昭和 57 年
『新潟県の近世社寺建築 -新潟県近世社寺建築緊急調査報告書-』新潟県教育委員会、昭和 60 年
『撞木造りの町並みと米沢街道 -新潟県関川村の村づくり』財団法人 観光資源保護財団、昭和 63 年
西村伸也・廣江真治・千々石佳弘「新潟の町家における空間構成の特徴とそのしくみ -高田・白根・栃尾の「ヒアワイ」「ダシアイ」「クイアワセ」の使われ方と共用のしくみ-」『日本建築学会計画系論文集』第 467 号、平成 7 年
菅原邦生『雁木通りの形成と衰退に関する研究』平成 10 年
長野克水「直江津における「座敷蔵」」『郷土新潟県の生活風土』新潟県社会科教育研究会、昭和 59 年
『地域の災害履歴情報の住宅・住宅地開発への活用に関する研究』建築研究振興協会、平成元年
菅原邦生・波多野純「近世における雁木通りの建設過程」『日本建築学会計画系論文集』第 494 号、平成 9 年
菅原邦生・波多野純「近代における雁木通りの整備過程と衰退過程」『日本建築学会計画系論文集』第 506 号、平成 10 年
西和夫「上越市中ノ俣の民家と集落」『建築史研究の新視点二 -建築と民俗・芸能・技術・地震』中央公論美術出版、平成 12 年

[写真集]

- 『ふるさとの思い出 写真集 明治・大正・昭和 高田・直江津』上越郷土研究会、昭和 54 年
『ふるさとの百年 上越』新潟日報事業社、昭和 57 年
『思い出ほろろん上越編』上越市、新潟日報事業社、平成 3 年
『上越のいまむかし』上越郷土研究会、平成 4 年
『アルバム直江津』北越出版、平成 11 年

図・表目録

〔図〕

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 図1-1 | 高田地区旧町名地図および雁木通り | 図1-37 | ミセ |
| 図1-2 | 高田火災地図(延宝年から昭和10年まで) | 図1-38 | 事務室 |
| 図1-3 | 高田の町家1列型の平面 | 図1-39 | 表2階 |
| 図1-4 | 「チャノマ」の梁組 | 図1-40 | 小屋裏 |
| 図1-5 | 典型的な上越地方の町家の「チャノマ」 | 図1-41 | 大杉屋1階平面図 |
| 図1-6 | 川瀬家平面 | 図1-42 | 大杉屋2階平面図 |
| 図1-7 | 今井染物店平面 | 図1-43 | 大杉屋東側立面図 |
| 図1-8 | 平井呉服店平面 | 図1-44 | 大杉屋南側立面図 |
| 図1-9 | 竹内家平面 | 図1-45 | 大杉屋北側立面図 |
| 図1-10 | 旧尾玉屋ミセ蔵内部(2階より) | 図1-46 | 大杉屋桁行断面図 |
| 図1-11 | 高田と白根の「チャノマ」の吹抜 | 図1-47 | 大杉屋配置図 |
| 図1-12 | 関川の民家の断面 | 図1-48 | 大杉屋(『北越商工便覧』より) |
| 図1-13 | 山岸家断面 | 図1-49 | 住宅外観 |
| 図1-14 | 金津家断面 | 図1-50 | 工場外観 |
| 図1-15 | 今井染物店断面 | 図1-51 | 1階土間 |
| 図1-16 | 小林家断面 | 図1-52 | 1階広縁 |
| 図1-17 | 中藤家断面 | 図1-53 | 2階書院障子 |
| 図1-18 | 竹内家吹抜 | 図1-54 | 1階チャノマ |
| 図1-19 | 「代牛水」墨書 | 図1-55 | 1階ザシキからブツマを見込む |
| 図1-20 | 雁木の派生的分類 | 図2-1 | 高達回漕店事務所 |
| 図1-21 | 白川商店前面のガラス戸 | 図2-2 | 光源寺観音堂(『江戸名所図会』より) |
| 図1-22 | 岸波紋章ネーム店吹抜の開閉戸 | 図2-3 | 真行寺経蔵の「雨屋」 |
| 図1-23 | 高橋飴屋(『北越商工便覧』より) | 図2-4 | 座敷蔵のある家の間取り |
| 図1-24 | 古写真 | 図2-5 | 聴信寺平面図 |
| 図1-25 | 古写真 | 図2-6 | 外観(正面) |
| 図1-26 | 昭和56年の工事 | 図2-7 | 外観(背面・側面) |
| 図1-27 | 高橋飴屋1階平面図 | 図2-8 | 内部(外陣より内陣を見込む) |
| 図1-28 | 高橋飴屋2階平面図 | 図2-9 | 内部(外陣より広縁を見込む) |
| 図1-29 | 高橋飴屋正面図 | 図2-10 | 内陣の荘厳 |
| 図1-30 | 高橋飴屋側面図 | 図2-11 | 内外陣境の欄間 |
| 図1-31 | 高橋飴屋梁行断面図 | 図2-12 | 外陣の架構 |
| 図1-32 | 『町屋 共同研究』所載平面図 | 図2-13 | 向拝の懸魚(亀) |
| 図1-33 | 外観(正面) | 図2-14 | 真行寺平面図 |
| 図1-34 | 外観(側面) | 図2-15 | 外観(正面) |
| 図1-35 | ミセ | 図2-16 | 外観(側面) |
| 図1-36 | ミセ | 図2-17 | 内部(外陣より内陣を見込む) |
| | | 図2-18 | 左余間 |
| | | 図2-19 | 外陣の架構 |
| | | 図2-20 | 外陣虹梁の絵様 |

- 図2-21 外陣（参詣の間）の架構
 図2-22 外陣（矢来内）の架構
 図2-23 林正寺平面図
 図2-24 林正寺桁行略断面図
 図2-25 外観（正面）
 図2-26 外観（背面）
 図2-27 向拝懸魚
 図2-28 内部（参詣の間より内陣をみる）
 図2-29 参詣の間
 図2-30 内陣仏壇
 図2-31 左余間
 図2-32 観音寺平面図
 図2-33 観音寺桁行略断面図
 図2-34 外観（正面）
 図2-35 外観（側面）
 図2-36 向拝鏝絵
 図2-37 内部
 図2-38 内部（大間から位牌堂をみる）
 図2-39 内外陣境欄間
 図2-40 内部（大間より方丈をみる）
 図3-1 『北越商工便覧』にみる高田の商家分布地図
 図3-2 高田製油社（『北越商工便覧』より）
 図3-3 開運社（『北越商工便覧』より）
 図3-4 圓山亭（『北越商工便覧』より）
 図3-5 石田伊之助（『北越商工便覧』より）
 図3-6-1 多田金十郎（西洋小間物）（『北越商工便覧』より）
 図3-6-2 多田金十郎（西洋小間物）
 図3-7 吉田休治郎（西洋小間物）（『北越商工便覧』より）
 図3-8-1 丸山庄五郎（和用呉服）（『北越商工便覧』より）
 図3-8-2 丸山庄五郎（和用呉服）
 図3-9-1 高橋孫左衛門（飴）（『北越商工便覧』より）
 図3-9-2 高橋孫左衛門（飴）
 図3-10-1 高陽館（料亭）（『北越商工便覧』より）
 図3-10-2 高陽館（料亭）
 図3-11-1 屋根の葺材
 図3-11-2 屋根の葺材
 図3-12-1 今井清蔵（染物）（『北越商工便覧』より）
 図3-12-2 今井清蔵（染物）
 図3-13 山田屋文造（宿、料理）（『北越商工便覧』より）
 図3-14 開運組本店（貨物取扱）（『北越商工便覧』より）
 図3-15 早津善作（書籍）（『北越商工便覧』より）
 図3-16 小林金治（回漕問屋）（『北越商工便覧』より）
 図3-17 共同商会（『北越商工便覧』より）
 図3-18 古川長四郎（回漕問屋）（『北越商工便覧』より）
 図4-1 床下に収納されている木材
 図4-2 差掛屋根をもつ農家
 図4-3 北島家
 図4-4 下手改造の農家
 図4-5 上手改造の農家
 図4-6 屋根を切り上げて設けられた窓
 図4-7 中ノ俣連続屋根伏図
 図4-8 下室ミチ家平面図
 図4-9 下室ミチ家桁行断面図
 図4-10 下室ミチ家正面図
 図4-11 下室ミチ家側面図
 図4-12 外観
 図4-13 ニワよりナカマをみる
 図4-14 チャノマ
 図4-15 チャノマの架構
 図4-16 オクデイ
 図4-17 小屋裏
- 〔表〕**
- 表 1-1 高田地区の地震と被害
 表 1-2 火災の年代と町名
 表 1-3 県下の町家との規模比較
 表 1-4 渡廊下の発生時期推定
 表 3-1 『北越商工便覧』業種別商家数（高田地区）
 表 3-2 『北越商工便覧』に見る町別の職種分類と間口の間数
 表 3-3 造り込み雁木を持つ商家
 表 3-4 卯達を持つ商家
 表 3-5 西洋的要素のある商家
 表 3-6 西洋の品物を扱う商家
 表 3-7 『北越商工便覧』に見る高田、直江津の商家一覧
 表 3-8 『北越商工便覧』業種別商家数（全地域）
 表 3-9 『北越商工便覧』の商家の屋根材
 表 3-10 『北越商工便覧』の町家の形式